

令和 6 年 6 月 21 日現在

機関番号：32697

研究種目：若手研究

研究期間：2019～2023

課題番号：19K13002

研究課題名（和文）クチャ（亀茲）国の仏教石窟寺院をめぐる美術・考古・文献資料の総合的研究

研究課題名（英文）Study on the Buddhist rock monasteries in the Kucha Kingdom: Art, Archaeology, and Texts

研究代表者

檜山 智美 (Hiyama, Satomi)

国際仏教学大学院大学・仏教学研究科・特任研究員

研究者番号：60781755

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,200,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、かつてシルクロード西域北道の最大規模のオアシス国家であったクチャ（亀茲）の仏教石窟寺院及びその壁画において観察される6世紀中葉頃の大きな変容を、考古学・仏教文献学・保存科学などの諸分野の研究者との共同で分析した。その結果、石窟寺院の変容は亀茲国の説一切有部教団の分派の活動と連動していることを解き明かした。本研究の成果は2022年にG. Vignato氏らとの英文共著として刊行したほか、2024年には中国語版も出版した。本書に対し、国内外で仏教学や建築史の研究者からの書評も発表されており、西域仏教文化研究の各分野に一定のインパクトを与える新たな研究成果を出すことが出来たと言える。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は中国新疆のクチャの仏教石窟寺院を対象とする。近年、美術史、考古学、文献学の各分野において、六世紀頃のクチャの仏教文化において大きな変化が発生していたことが観察されていたが、その全体像は不明であった。本研究ではクチャの考古・美術・文献資料を学際的共同研究によって分析し、6世紀前後のクチャの説一切有部僧団の変容を解明した。また、国際ワークショップの主催や英語・中国語の共著の出版により、国内外の分野の垣根を越えた研究者間のネットワーク構築に貢献したほか、研究期間中に国内外の学会、公開講演会等で20回以上発表し、本研究の成果を学界及び社会に広く発信するためのアウトリーチも積極的に行った。

研究成果の概要（英文）：This research project focused on the analysis on the certain cultural shift, which occurred in the Buddhist rock-cut monasteries and its decoration of the Kucha Kingdom in around the mid-6th century. The interdisciplinary approach in collaboration with the archaeologist, philologist, and conservation scientist led to the conclusion that this shift is linked to the activities of the two subgroups of the Sarvastivada monastic communities which existed in Kucha. The result of this research was published as an English monograph in 2022; the publication of its Chinese version in 2024 enabled it to reach to the wider audience. The monograph has received a lot of feedbacks from international scholars from various fields of the Silk Road Buddhist cultural studies, including two book reviews written from the perspectives of Buddhology and Architectural History. Based on these facts, this project can be regarded as succeeding in making a certain contribution and an impact on this research field.

研究分野：仏教美術史

キーワード：仏教美術史 仏教図像 石窟考古学 説一切有部 西域仏教 クチャ 仏教説話 シルクロード

## 1. 研究開始当初の背景

中国新疆ウイグル自治区クチャ地方の仏教石窟寺院址に残された壁画は、亀茲国における仏教文化の発展や西域北道の歴史的状況を反映した貴重な視覚史料である。研究代表者は2016～2018年度にかけて取り組んだ研究課題「西域北道の仏教石窟寺院に見られるインド・イラン様式壁画の超域的コンテクストの研究」（特別研究員奨励費、16J02828）において、クチャの壁画の絵画様式が六世紀中葉頃に第一インド・イラン様式から第二インド・イラン様式へと変化したこと、そしてこの絵画様式の変遷が、単なる様式の発展に留まらず、当時のシルクロード交通網の歴史的状況の変化と連動しているという研究成果を得ていた。六世紀中葉頃にクチャの仏教文化において発生した何らかの大きな変容は、考古学及び文献学分野でも観察されていたが、本現象を領域横断的な視点で扱った研究はこれまで行われていなかった。

そのため、クチャの石窟寺院とその荘厳、そして出土文献に対し、石窟考古学、仏教文献学、さらには保存科学の研究者との学際的共同研究を行うことにより、研究代表者によるクチャの壁画の図像学的研究成果を、六世紀のクチャの仏教文化の全体像の中で位置付けて捉え直すというのが、本研究開始時の構想である。

## 2. 研究の目的

(1) 考古学分野で観察されていたクチャの石窟寺院の空間構造の根本的な変化、美術史分野で観察されていた壁画図像の様式及び説話図像の典拠テキストの変化、保存科学分野で観察されていた壁画に使用された顔料の変化、そして文献学分野で観察されていた、クチャ現地で書写された梵語写本の増加及び仏典のクチャ語（トカラ語 B）への翻訳の活発化といった現象は、全て6世紀前後に発生したと考えられている。本研究は石窟考古学者の G. Vignato 教授（北京大學）、仏教文献学者の P. Kieffer-Pülz 博士（マインツ文学学術院）、保存科学者の谷口陽子教授（筑波大學）との学際的共同研究を通して、六世紀頃にクチャで発生していた仏教文化の変容の本質を、分野の垣根を越えた視点によりクチャ仏教の全体像を復元的に再構築しながら解き明かすことを第一の目的とする。

(2) 研究期間中、本研究課題の成果の中間発表を行うために複数回の国際ワークショップを主催し、西域研究の様々な分野と国の垣根を越えた学術交流の場を創ることにより、これまで分野の垣根を越えた交流が十分に行われてきたとは言い難い西域研究の国際的・学際的なネットワークの基盤を形成することを第二の目的とする。

## 3. 研究の方法

(1) 本研究の基礎を為すのは、一次資料となるクチャの石窟寺院それ自体が持つ空間構造、荘厳レイアウト、図像内容等に関する膨大なデータの整理である。特に六世紀中葉以降のクチャにおいて主流となる中心柱窟を中心とする石窟グループに対しては、先行研究も比較的多いのに対し、それ以前の方形祠堂窟を中心とする石窟グループに対しては、保存状態の悪さや、石窟の多くが後年の改修を経ていること、壁画資料の大半は各国に散在していること等の原因が重なり、これまで殆どその全貌が知られていなかった。そのため、研究期間の前半は、Vignato 教授との共同研究により、これらの方形祠堂窟を中心とする石窟グループ（本研究では「伝統 A」と呼ぶ）を、遺跡の現状と各国探検隊による二〇世紀初頭の探検記録を手掛かりに、類型学の方法論を通して分析し、当時の各石窟遺跡の全体像を復元することに注力した。この作業の成果として、「伝統 A」石窟群の伽藍配置や尊像配置、僧房窟の空間構成、荘厳レイアウト、説話主題と典拠テキストなどに関するデータの総目録を作成したほか、同じ「伝統 A」方形祠堂群の中でも、異なる用途のために使用されていたものと思われる、いくつかの異なるタイプの石窟が存在したことを突き止めた。なお、本成果は研究成果②・④の第 I, II 章に該当する。

(2) (1)の成果を基に、「伝統 A」石窟群に見られる尊像・壁画の説話題材の図像表現とその典拠経典の詳細な分析を行った。

(3) (1)(2)の研究成果を基に、「伝統 A」石窟群と「伝統 B」石窟群のそれぞれの特徴を、Vignato 教授と共に総合的に検討し、それぞれの石窟群の総合的な伽藍配置や、尊像配置、石窟内の照度や動線に反映された石窟の儀礼的用途の変化、僧侶の居住スペースの構造的変化などについて復元的に考察した。

(4) 共同研究者の P. Kieffer-Pülz 博士によるクチャ出土の律文献写本の出土状況とその内容分析の成果を、(1)(2)(3)の研究成果に基づき、考古・美術資料の状況と関連付けて総合的に検討した。

(5) 共同研究者の谷口陽子教授による、クチャの「伝統 A」・「伝統 B」石窟群のそれぞれに固有の顔料・絵画材料の使用状況に関する研究成果を、(1)(2)(3)の研究成果に基づき、考古・美術

資料の状況と関連付けて総合的に検討した。

(6) (1)~(5)の国際的・学際的共同研究を恙無く遂行するために、主な共同研究者である Vignato 教授を日本へ二度招聘し、複数回の講演会・ワークショップを開催したほか、研究代表者自身も複数回、北京大学考古文博学院での短期の研究滞在を行い、緊密な研究連携を実現した。また、2020年2月には共同研究者全員を龍谷大学へ招聘し、国内の関連分野の研究者も広く招待した国際ワークショップを主催し、本共同研究の中間成果報告を行うと共に、様々な分野の研究者からのフィードバックを頂く機会を設けた。2021年度以降は新型コロナウイルス流行により、対面でのワークショップ等の開催は困難となったが、Zoom や微信等のオンライン・ツールを駆使することにより、共同研究者たちとの密接な連携を取り続けた。

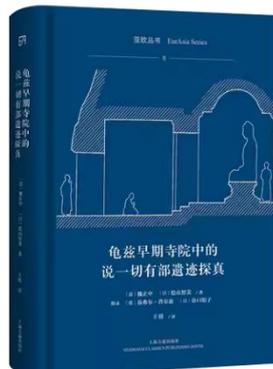
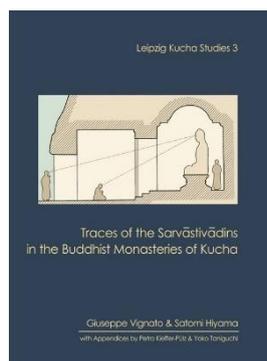
#### 4. 研究成果

上述のアプローチを通して、本研究は多くの新知見を得ることが出来た。すなわち、クチャの説一切有部系の石窟寺院は四分期に分類することが出来るが、中でも主流であった二期（本研究では、説一切有部の分派とその名称の問題の複雑性に鑑みて仮に「伝統A」・「伝統B」と呼ぶ）は、それぞれクチャ地域の中でも早期に発展した説一切有部僧団の文化と、後期の説一切有部僧団の文化を反映したものであると見做すことが出来る。これらの集団は、それぞれ異なる系統の戒律に基づいた僧団生活を送り、また異なる説話伝承を保持していたことが、石窟群の空間構造及び荘嚴内容に反映されている。具体的には、「伝統A」石窟群の説話図像はアシュヴァゴーシャの『ブッダチャリタ』、アールヤシューラの『ジャータカマーラー』、クマーララータの『大莊嚴論経 (Kalpanāmaṇḍitikā)』といったクシャーン朝期の梵語説話文学、ないしは『十誦律』をはじめ、五世紀までに漢訳された諸々の仏典と深く関連しているほか、これらの漢訳仏典のうち三点には、クチャ出身の鳩摩羅什が漢訳に関わっている。「伝統A」石窟群の壁画の中で『根本説一切有部律』所収のバージョンと対応する図像は数例しか見出されないのに対し、「伝統B」石窟群の説話図像は、これまで比定されている壁画図像の大部分が『根本説一切有部律』所収の説話と符合する。これらの観察結果は、クチャの「伝統A」から「伝統B」石窟群への移り変わりが、説一切有部系の説話伝承のクロノロジーと対応していると同時に、クチャ出土の律文献の出土状況とも連動していることを示している。それはすなわち、クチャという同一地域において、全く異なる伝統を保持する説一切有部の分派が少なくとも二つ存在していたこと、そして「伝統B」の分派の隆盛と共に、「伝統A」の分派が衰退したという状況を明示しているのである。さらに、このクチャ内部の説一切有部僧団における文化的変容が、石窟壁画に用いられた絵画材料の変化をも伴うことは、「伝統A」から「伝統B」へのシフトが、シルクロード交易網の歴史的状況の変化とも関連する可能性を示している。

これらの研究成果は、中央アジアの同一地域における説一切有部僧団の中にも多様性が存在したことを示すと同時に、有部教団の発展の様相を考古学的遺構に基づいて歴史的に復元し得るといふ、新たな研究アプローチを提起するものでもある。また、本研究で提示した石窟寺院址の相対年代は、各分期の壁画に特有の図像モチーフや絵画材料を、西域北道の歴史的状況と関連付けて、更に応用的な研究を行うための基盤にもなる。本研究は、説一切有部系の仏教文化や、西域仏教美術史分野の更なる研究に寄与する有意義な成果を挙げることが出来たと言えよう。

#### <主な研究成果物（発表年順）>

- ① 檜山智美「クチャ（亀茲）国の早期の説一切有部系仏教寺院の復元的考察」『密教図像』第40号、2021年、pp. 31-54.
- ② Giuseppe Vignato & Satomi Hiyama, with Appendices by Petra Kieffer-Pülz & Yoko Taniguchi, *Traces of the Sarvāstivādins in the Buddhist Monasteries of Kucha (Leipzig Kucha Studies 3)*. New Delhi: DEV Publishers & Distributors, 2022.
- ③ 檜山智美「(講演録) 中央アジアの仏教寺院を復元する—石窟構造、美術、そして説一切有部の二分派—」『對法雜誌』第4号、2023年、pp. 89-121.
- ④ 魏正中 / 檜山智美 (著) 基弗尔·普尔兹 / 谷口阳子 (附録) 《龟兹早期寺院中的说一切有部遗迹探真》上海：上海古籍出版社，2024年。



(左) ②の書影

(右) ④の書影

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計7件（うち査読付論文 4件/うち国際共著 3件/うちオープンアクセス 4件）

1. 著者名 檜山智美	4. 巻 4
2. 論文標題 (講演録)中央アジアの仏教寺院を復元する 石窟構造、美術、そして説一切有部の二分派	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 對法雜誌	6. 最初と最後の頁 89-121
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.34501/abhidharmastudies.4.0_89	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Ching Chao-jung & Satomi Hiyama	4. 巻 4
2. 論文標題 Kucha and Yanqi	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 Brill's Encyclopedia of Buddhism vol. IV History	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Satomi Hiyama	4. 巻 -
2. 論文標題 Iconographical Remarks on the Mural Fragments from the Kizil Grottoes Kept in the Hirayama Ikuo Silk Road Museum, Japan	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 Transcending :Pre modern Cultural Transactions Across Asia	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 檜山智美	4. 巻 5
2. 論文標題 平山郁夫シルクロード美術館所蔵の三点のキジル石窟壁画片について 原位置と画像内容の分析	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 平山郁夫シルクロード美術館紀要	6. 最初と最後の頁 3-29
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 檜山智美	4. 巻 35
2. 論文標題 クチャ(亀茲)国の早期の説一切有部系仏教寺院の復元的考察	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 密教図像	6. 最初と最後の頁 31-54
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Satomi Hiyama	4. 巻 28
2. 論文標題 Transmission of the "World": Sumeru Cosmology as Seen in Central Asian Buddhist Paintings Around 500 AD	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 NTM Zeitschrift fuer Geschichte der Wissenschaften, Technik und Medizin	6. 最初と最後の頁 411 ~ 429
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s00048-020-00245-9	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Satomi Hiyama	4. 巻 24
2. 論文標題 New Identification of the Mural Fragment from the 'Pfauenhoehle' (Kizil Cave 76, III 8842)	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Indo-Asiatische Zeitschrift	6. 最初と最後の頁 4 ~ 14
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

〔学会発表〕 計17件(うち招待講演 13件/うち国際学会 12件)

1. 発表者名 檜山智美
2. 発表標題 大谷探検隊の資料を用いたクチャの壁画の図像学的研究
3. 学会等名 日本印度学仏教学会 第74回学術大会(パネルD:大谷探検隊と大谷コレクションが拓く知の地平)(招待講演)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Satomi Hiyama
2. 発表標題 From Elite Buddhism to Localized Monasticism? Shifting Trends in the Narrative Decor in Kucha Caves
3. 学会等名 Desert Mosaic: The Kucha Oasis Along the Ancient Silk Roads (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Satomi Hiyama
2. 発表標題 The Role of Jataka and Avadana for the Transmission of Buddhism as Seen from the Wall Paintings of Kucha Caves
3. 学会等名 国際シンポジウム「ジャータカ・アヴァダーナ伝承の多様性」(招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 檜山智美
2. 発表標題 6世紀の西域仏教石窟寺院の壁画に見られる須弥山図像について
3. 学会等名 人文研アカデミー2023 研究セミナー「仏教天文学と文化交流」(招待講演)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Satomi Hiyama
2. 発表標題 Image-Text Relations in the Case of the Early Sarvastivada Monasteries of Kucha
3. 学会等名 International Workshop "Image - Text - Reality in Buddhism: Interrelation & Internegation" (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Satomi Hiyama
2. 発表標題 Narrative art of the Sarvastivada Monasteries in Kucha (龜茲說一切有部寺院の叙事芸術)
3. 学会等名 文研論壇「龜茲石窟寺研究：考古・歴史・美術・文献」(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Koichi Kitsudo & Satomi Hiyama
2. 発表標題 Interpretation of the hell scenes in Subashi East Temple documented by the first Otani expedition
3. 学会等名 19th Congress of the International Association of Buddhist Studies (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Satomi Hiyama
2. 発表標題 Kucha Silks' Reexplored: Historical and Buddhological Aspects of the Silk Production in the Tarim Basin in the 5th-6th Centuries
3. 学会等名 28th European Association for Archaeologists Annual Meeting (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 檜山智美
2. 発表標題 中央アジアの仏教寺院を復元する 石窟構造、美術、そして説一切有部の二分派
3. 学会等名 対法雑誌刊行会主催講演会(招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Satomi Hiyama
2. 発表標題 Traces of the Sarvastivadins in the Buddhist Monasteries of Kucha
3. 学会等名 Vienna Ancient Tarim Studies Workshop (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Satomi Hiyama
2. 発表標題 Invisibility of Visual Art: Archeological Context of the Buddhist Art of Rock-Cut Monasteries of the Kucha Kingdom in the 5th-7th Centuries
3. 学会等名 Art History at Lunch 藝術史午餐聚會 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Satomi Hiyama
2. 発表標題 The Different Palettes that Colored Monastic Lives: Study on Pigments Used for Two Painting Styles in the Buddhist Monasteries of Kucha Kingdom in the 6th - 7th Centuries
3. 学会等名 Association for Asian Studies Annual Conference 2022 (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 檜山智美
2. 発表標題 クチャの説一切有部系の説話美術に見られる二つの系統について
3. 学会等名 2021 年度密教図像学会 第 40 回学術大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 檜山智美
2. 発表標題 西域北道の仏教石窟壁画に描かれた四天王とその眷属の画像
3. 学会等名 京都大学人文科学研究所「東アジアにおける阿弥陀如来の表象」班 第2回研究会 研究討論会「尊像の姿と作用 阿弥陀仏と四天王を例に」(招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 檜山智美
2. 発表標題 文化遺産をめぐる議論 ナラティブ、権力、脱類似化: シルクロードの仏教美術史の視点から
3. 学会等名 Kamogawa Talk Vol.2 学術とアート・文化の対話 「良い文化」とは誰が決めるのか? 文化遺産をめぐる議論(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 檜山智美
2. 発表標題 クチャの説一切有部の美術
3. 学会等名 国際ワークショップ「亀茲国の石窟寺院と説一切有部の仏教文化」(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Satomi Hiyama
2. 発表標題 Non-Buddhist Religious Icons in the Mural Paintings of Early Buddhist Caves in Kucha and Dunhuang
3. 学会等名 International Symposium "Mithra, Buddha, and Mani Walk into a Desert... Indo-Iranian and Sino-Iranian Encounters in Central Asia" (招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計5件

1. 著者名 Ines Konczak-Nagel, Satomi Hiyama, and Astrid Klein	4. 発行年 2022年
2. 出版社 Dev Publishers & Distributors	5. 総ページ数 436
3. 書名 Connecting the Art, Literature, and Religion of South and Central Asia: Studies in Honour of Monika Zin	

1. 著者名 Giuseppe Vignato / Satomi Hiyama	4. 発行年 2022年
2. 出版社 DEV Publishers & Distributors	5. 総ページ数 334
3. 書名 Traces of the Sarvastivadins in the Buddhist Monasteries of Kucha (Leipzig Kucha Studies 3)	

1. 著者名 宮治昭、福山泰子	4. 発行年 2020年
2. 出版社 中央公論美術出版	5. 総ページ数 644
3. 書名 アジア仏教美術論集 南アジア	

1. 著者名 神奈川県立金沢文庫	4. 発行年 2019年
2. 出版社 神奈川県立金沢文庫	5. 総ページ数 120
3. 書名 特別展 東洋学への誘い	

1. 著者名 魏正中、松山智美	4. 発行年 2024年
2. 出版社 上海古籍出版社	5. 総ページ数 365
3. 書名 龜茲早期寺院中の説一切有部遺跡探真	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>以下は本課題の学術協力機関等のウェブサイトです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・北京大学考古文博学院 <a href="https://archaeology.pku.edu.cn/">https://archaeology.pku.edu.cn/</a></li> <li>・ザクセン州立学術院「西域北道のクチャの仏教石窟壁画に関する学術研究プロジェクト」 <a href="https://www.saw-leipzig.de/de/projekte/wissenschaftliche-bearbeitung-der-buddhistischen-hoehlenmalereien-in-der-kucha-region-der-noerdlichen-eidenstrasse">https://www.saw-leipzig.de/de/projekte/wissenschaftliche-bearbeitung-der-buddhistischen-hoehlenmalereien-in-der-kucha-region-der-noerdlichen-eidenstrasse</a></li> <li>・ベルリン国立アジア美術館 <a href="https://blog.smb.museum/begriff/museum-fuer-asiatische-kunst/">https://blog.smb.museum/begriff/museum-fuer-asiatische-kunst/</a></li> <li>・フンボルト・フォーラム <a href="https://www.humboldtforum.org/en/">https://www.humboldtforum.org/en/</a></li> <li>・Academiaの個人サイト <a href="https://icabs.academia.edu/SatomiHiyama">https://icabs.academia.edu/SatomiHiyama</a></li> </ul>
--

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	ヴィニャート ジュゼッペ (Vignato Giuseppe)	北京大学・考古文博学院・教授	
研究協力者	キーファー・ピュルツ ペトラ (Kieffer-Puelz Petra)	マインツ文学学術院・研究員	
研究協力者	谷口 陽子 (Taniguchi Yoko) (40392550)	筑波大学・人文社会系・准教授  (12102)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計5件

国際研究集会 国際シンポジウム「ジャータカ・アヴァダーナ伝承の多様性」（国際仏教学大学院大学）	開催年 2023年～2023年
国際研究集会 国際ワークショップ「亀茲国の石窟寺院と説一切有部の仏教文化」（龍谷大学）	開催年 2020年～2020年
国際研究集会 Petra Kieffer-Puelz博士による特別講演会"Ganthipada commentaries in Pali literature. What do we know about this class of commentaries?"（東京大学東洋文化研究所）	開催年 2020年～2020年
国際研究集会 Giuseppe Vignato教授による特別講演会"'Connective Architecture' in the Rock Monasteries of Kucha"（京都大学人文科学研究所）	開催年 2019年～2019年
国際研究集会 中央アジア石窟考古学術講演会"Reading rock monasteries Kucha as a case study"（講演者：Giuseppe Vignato教授、早稲田大学文学研究科）	開催年 2020年～2020年

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
中国	北京大学考古文博学院			
ドイツ	Saxon Academy of Sciences and Humanities	Academy of Sciences and Literature Mainz	Asian Art Museum, Berlin	他1機関